

## 早稲田大学 教育学部 化学 講評

出題形式	記述式
試験時間	60分
特徴・その他	

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
I	理論化学	電池に関する出題である。いずれの問題も問題集みたことあるような内容である。また、問4のリチウムイオン電池に関する出題は、問題文をよく読めばできる問題である。	標準
II	無機化学	ケイ素に関する出題である。各設問は頻出レベルの無機化学の出題である。日々の復習と演習ができている解答者は、本問で苦戦はしなかったはずであろう。	標準
III	理論化学 有機化学	酵素反応に関する出題である。問1, 2は酵素の特徴と反応速度に関する出題であり、頻出の問題である。問3は教科書の例題レベルの問題である。問4, 問5は頻出ではないが、問題文を読めば十分に解答できたはずである。	標準
IV	有機化学	有機化合物の構造決定問題としては、よく見かける問題である。有機化合物の構造決定に関する演習を日頃できている解答者は十分に解答できたはずだ。	標準

## 〔総合コメント〕

昨年は大問が5題であったが、本年は例年通りの大問が4題であった。出題は、教科書問題集の標準問題レベルで、記述が少なくなった印象もあり、全体的に易化したといえよう。